

# 平成24年度病害虫発生予察特殊報第3号

平成25年2月4日  
愛知 県

- 1 病害虫名：トルコギキョウえそ輪紋病  
(病原ウイルス：アイリスイエロースポットウイルス  
*Iris yellow spot virus* : IYSV)

2 発生作物：トルコギキョウ (リンドウ科)

3 発生地域：尾張地域

4 発生確認の経過

平成24年6月、尾張地域の施設栽培のトルコギキョウで、葉や茎にえそが生じる被害を複数のほ場で確認した。発生株について、愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室において、RT-PCR法によるウイルス検定を行ったところ、本県未発生の *Iris yellow spot virus* (IYSV) によるトルコギキョウえそ輪紋病であることが判明した。

本ウイルスによる病害は、平成8年に千葉県のアルストロメリアで初めて確認され、現在までに27都県において、トルコギキョウ、ニラ、タマネギ、ネギなどで特殊報が発表されている。

5 病徴

本ウイルスによるトルコギキョウでの病徴は、葉のえそ斑点や茎のえそである(図1～3)。その他、葉の黄化やえそ輪紋、湾曲、萎縮、花卉の斑入り、病気の進行による萎凋などの症状も報告されている。

6 病原ウイルスの特徴

(1) 伝染方法

本ウイルスは、ネギアザミウマ(図4)によって媒介され、その他のアザミウマによる媒介は確認されていない。一度保毒したネギアザミウマは、死ぬまでウイルスを伝搬する。経卵伝染はしない。また、土壌伝染や種子伝染はなく、管理作業による汁液伝染の可能性も低いとされている。

(2) 寄主植物

現在までに40種以上の植物で感染が報告されている。主なものを表に示す。

7 防除対策

(1) 施設の開口部に防虫ネットを設置し、ネギアザミウマの侵入を防ぐ。

(2) 青色粘着トラップを設置するなどしてネギアザミウマの発生動向の把握に努め、防除を徹底する。農薬で防除する際は、同一系統の農薬の連用を避ける。

(3) 発病株は見つけ次第抜き取り、袋で密閉してほ場外へ持ち出し、適切に処分する。

(4) ほ場内外の雑草は、病原ウイルスの感染源やネギアザミウマの増殖源となるので、除草を徹底する。

8 連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
電話：0561-62-0085 (内線471)



図1 株の被害状況



図2 葉のえそ症状



図3 葉と茎のえそ症状



図4 ネギアザミウマ雌成虫

表 IYSVの感染が確認されている主な植物

科	植物名
リンドウ科	トルコギキョウ
ユリ科	ネギ、タマネギ、ニラ、ラッキョウ、ニンニク、テッポウユリ、リーキ
アルストロメリア科	アルストロメリア
ヒガンバナ科	ユーチャリス、スイセン
ナデシコ科	コハコベ、オランダミミナグサ、ノミノフスマ
アブラナ科	ダイコン、ハクサイ、ブロッコリー、ミズナ、ナズナ、イヌガラシ、スカシタゴボウ、タネツケバナ
キク科	ノボロギク、チチコグサモドキ
ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ、トキワハゼ
カタバミ科	カタバミ
スベリヒユ科	スベリヒユ
スマレ科	パンジー
シソ科	ホトケノザ